

徳島阿波おどり空港の機能強化に関する調査結果の概要について

運輸戦略局交通戦略課

1 空港の現状

- ・海上自衛隊との共用空港
- ・駐機スポット：4か所、ボーディングブリッジ(PBB)：2基
- ・東京線12往復/日、福岡線2往復/日、札幌線3往復/週(季節運航)
- ・利用者数は、ダブルトラック化や景気回復等により、急速に回復
H21年度：75.6万人→H25年度：96.9万人(+28%)、H26年度も増加
※無償旅客を含む
- ・H25年には香港からの連続チャーター便が運航

2 現行施設の課題

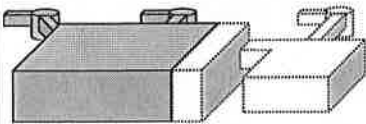
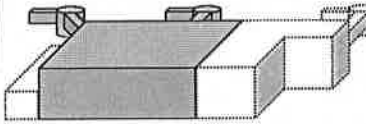
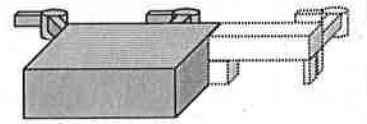
- ・共用空港としての運用制限もある中、東京線の相次ぐ増便等により、PBB2基での対応に限界
※供用開始当時：東京線6往復/日、福岡線2往復/日、名古屋線1往復/日、札幌線(季節運航)
- ・時間帯により搭乗待合室や保安検査場が混雑
- ・仮設のCIQ(税関・出入国審査・検疫)設備で対応、十分な滞留スペースがなく混雑、国際便旅客用トイレや取調室も不足

3 空港機能強化のあり方

(1) 基本的な方向性

- ・「ダブルトラック+1」の同時3機を受入可能な施設
- ・国際便対応機能についても強化
- ・駐機スポットと拡張用地の確保が可能な西側への展開

(2) 検討

独立した国際便施設の整備	現旅客ビルの拡張	PBB・固定橋のみ増設
 <p>・国内線・国際便旅客の完全分離が可能 規模：5,000～5,500㎡程度</p>	 <p>・発着状況に応じた効率的な運用が可能 規模：3,500～4,000㎡程度</p>	 <p>・最小限の整備、比較的短期間で整備可能 規模：700～1,000㎡程度</p>